

1/2/2011「言は肉となった」ヨハネ1: 1-6

ヨハネによる福音書は記しています。「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。」

言とは何でしょうか。言とは、神の私たちへの思い、私たちに託した目的、私たちへの愛を伝える媒介です。聖書において神は常に人間に語りかける神として描かれている理由がここにあります。

神はアブラハムに父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさいと語りかけます。モーセに、ヘブライの民をエジプトからミルクと蜂蜜の流れる土地へ導くようにと語りかけます。預言者に、捕囚の日々は終わり救いの日がやってくると語りかけます。神は言の神、語りかける神です。

ヨハネによる福音書はよりラディカルです。「言は肉となってわたし達の間に宿った。」

肉とは人間の身体のことです。神の思い、神の目的、神の愛はイエスにおいて人間の形を取ったと言うのです。つまり、言の神は、肉眼で見ることのできる人間となった、これ以上近づくことができないほど私たちに近くなったと言うのです。

ヨハネが言わんとする意味は明白です。神の私たちへの思いを知りたければ、イエスに聞きなさい。神を見たければ、イエスを見なさい。神の愛を感じたければ、イエスに従いなさい。イエスこそ神の言そのものだから。そう言うのです。

ヨハネは続けます。「言は暗闇を照らす光であった。」

イエスの時代に、人々は羊の油で作ったろうそくを光として使いました。ろうそくの光なくしては、真っ暗闇の中で動く事さえできなかつたのです。暗闇に光るろうそくの灯火が勇気、知恵、希望の象徴である理由がここにあります。

ここで思い出しましょう。クリスマス・ストーリーに登場する、荒野で野宿していた羊飼いと東の国から来た博士達を。

彼らはヘロデ王ではなく、幼子イエスを選び取ったのです。それは勇気を意味します。彼らはこの世の権力と神の力の違いをしっかりと識別したのです。それは知恵を意味します。彼らは暗闇に覆われた故郷や荒野に、喜び勇んで帰っていったのです。それは希望を意味します。

以上のことは現代を生きる私たちにどのような意味を持っているのでしょうか。

あなたたちは毎日を荒れ野の羊飼いのように、東の国の博士達のように、勇気と知恵と希望を持って生きるように召し出されている。これがヨハネによる福音書の私たちへのメッセージです。ヘロデの平和ではなく、イエスのシャロームによってあなたの生活を律しなさい、と言うのです。

これは厳しく、困難な道です。しかし不可能な道ではありません。何故なら、「言は肉となってわたしたちの間に宿った」からです。「暗闇は真の光を覆い尽くすことはできなかつた」からです。

ですから、この新しい年を勇気を持って、思慮深く、希望に満たされて正々堂々と歩み出そうではありませんか。